

英語圏の学校との連携による英語教育について (1)*

To Practice the English Teaching in Collaboration with the Schools in English-speaking Countries (1)

木野村 淳子†

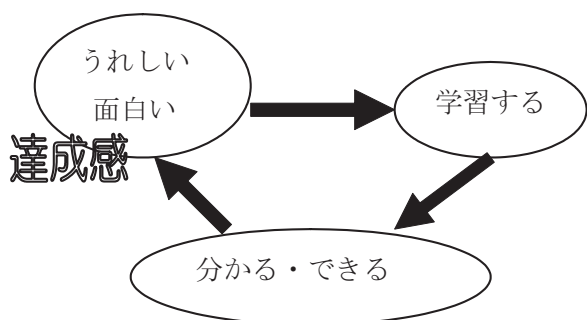
Kinomura, Junko

廣田 則夫‡

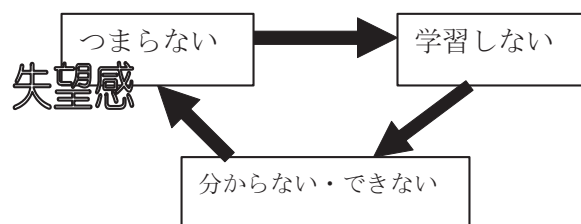
Hirota, Norio

0. 序

『顔が見える』相手とのコミュニケーションが成立した時、学習者はもっと英語が話せるようになりたいと考える。学習への意欲を高めることこそが、教師の大きな役割のひとつである。文部科学省が平成14年7月に作成した『『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想』の中でも、「英語学習へのモチベーションの向上」について取り上げられている。学習に対するモチベーションの高まりは、図1・図2のように示すことができる。



(図1：モチベーションの高まる良い循環)



(図2：モチベーションの減退する悪循環)

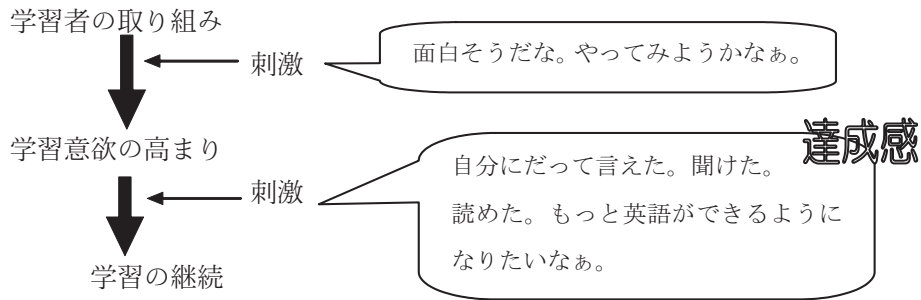
教師は、図2のような学習意欲減退の悪循環を、図1に示す達成感の感じられる良い循環に変える手助けをしていかなければならない。いったんこの良い循環に乗ってしまえば、多少の壁にぶつかった場合でも、自分で自分を励ましながら学習することが可能になると考えられる。

高まった意欲をいかに継続させていくかというのが、次の問題である。単発的な活動中心の学習を続けるだけでは、学習者に力は蓄積されない。したがって教師は、学習を継続させるための手立てを講じていかなければならない。これがもう一つの教師の役割である。

* この研究は、平成18年度岐阜県長期内地派遣による研修の報告書に大幅に加筆修正を加えたものである。

† 山県市立高富中学校教諭（英語）

‡ 岐阜大学教育学部英語教育講座



(図3：学習継続のための動力)

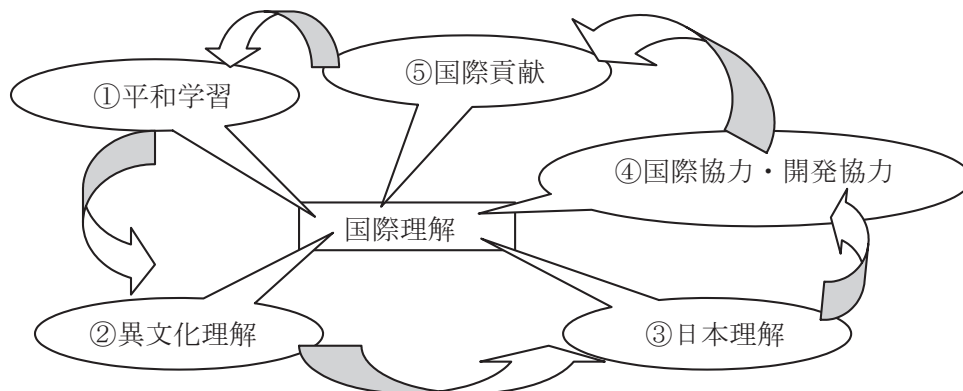
図3において、モチベーションを高めるためには、学習に対する刺激が必要である。それは例えば、教師の励ましやアドバイスであったり、仲間の頑張りであったりするかも知れない。

本研究では、英語学習へのモチベーションを高め、それを持続させていくための刺激の一つとして、海外の学校の生徒との、コミュニケーションを通じた英語教育に関して、その実践例を報告する。

1. 背景

1.1 「英語教育」と「国際理解」

平成14年度に「総合的な学習の時間」が、学校教育へ導入されてから5年になる。従来の教科指導のように学習指導要領に内容が明示されているものとは違って、「総合的な学習の時間」で取り扱う内容は個々の学校に任せられている。そこで取り扱われるテーマは、「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉・健康」など従来の教科をまたがるような課題に関するものである。「国際理解」というテーマのもとで、「英語活動」を取り入れている小学校もある。「英語教育」という観点から、「総合的な学習の時間」で取り扱われている「国際理解」を見てみよう。



(図4：「国際理解」の取り上げ方)

この図は、全国の公立小・中学校で様々な学校がどのような切り口から国際理解に取り組んでいるかを、Internet上でいくつか調べまとめたものである。

①から⑤の項目は、それぞれ互に関わりあって取り扱われ、独立のテーマとして取り扱われてはいないようである。岐阜県総合教育センターの「総合的な学習時間」と教科等との関連 (<http://www.gifu-net.ed.jp/project/sogo/top.htm>) にも記されている通り、「総合的な学習の時間」では、問題解決的な過程を踏まえたり体験的な学習を積極的に取り入れたりする授業が展開されるため、交流体験を位置づけることが多い。この交流体験が、いわゆるコミュニケーション活動の一例であると捉えられる。例えば、交流の対象には次のような例がある。() の中のURLは実践例が

示されているサイトである。

- 地元の大学で学んでいる留学生との交流
(http://www.edu.city.kyoto.jp/school/adcon/h12/e_kinu/kinugasa.html)
- 地域で暮らす外国人との交流
- 英語圏の小・中学校との交流
(http://www.edu.city.kyoto.jp/school/adcon/h11/b_nisi/nishijin.html)
- 修学旅行先の学校との交流（アジア圏の学校も含まれる）
(<http://www.cec.or.jp/e2a/e2a/5/08.HTM>)
- 不特定多数の読者への情報提供（INTERNETを利用して）
(<http://academic2.plala.or.jp/nishi-s/TOP-ENGLISH.htm>)

また、民間の団体やNGOを迎えての授業を実践している学校もある。

- JICA（独立行政法人 国際協力機構; Japan International Cooperation Agency）
(<http://www.jica.go.jp/yokohama/jigyoyou/rikai.html#02>) やUPA（United Peoples Alliance）
(<http://www.peaceboat.org/project/aid/index.html>) による国際協力出前講座
- 民間企業協賛の授業（例：ハウス食品 (<http://www.sogogakusyu.net/school/>))

こういった交流の方法は、直接的なものと間接的なものとに分けられる。

直接的交流	}	• 実際に現地を訪問しての交流
		• 相手を学校へ招いての交流
間接的交流	}	• 手紙やE-mail, ビデオレター等を使っての交流
		• TV会議, Net Meetingの交流・・・ (http://www.cec.or.jp/e2a/e2a/5/07.HTM)

これまで中学校では、上で述べたような方法を組み合わせながら、以下のような内容を「総合的な学習の時間」における「国際理解」として取り扱ってきた。

- 学校生活・日常の家庭生活等について、共通語となりうる英語で知らせ合う。
- お互いに相手に母国語を教えあう。
- 簡単なテーマを決めて意見の交換を行う。

いずれの内容も、英語圏の生徒や英語を学んでいる国の生徒との交流となれば、言語に関わって教師の指導が必要になってくる。しかし、「総合的な学習の時間」は一般に、学年の教師や担任が担当することになるため、英語という教科と直接結びつけるには限界がある。

次に、文部省の掲げる外国語教育の目標について見てみよう。

- * 外国語を通じて、言語や文化に関する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301c/990301i.htm)

「教科」英語に関していえば、コミュニケーション能力の育成が目標であり、その4本の柱はSpeaking, Listening, Reading, Writingである。したがって、生徒の英語力をつけることが教師の役割である。これは、先ほど述べた「総合的な学習の時間」の「国際理解」教育というテーマで学習を行う時の目標とは異なる。「総合的な学習の時間」は、英語能力の向上を一番の目標にするわけではない。例えば、「総合的な学習の時間」に韓国についての調べ学習を行うとする。韓国についてという大きなテーマから、自分の興味を絞り、数ある情報源の中から自分の探し求める情報を正しく得る方法を学ぶ。そこでは、試行錯誤が繰り返されるが、これもまた一連の学習活動である。韓国の生徒とコミュニケーションをする際に、共通語として英語を利用して、意思の疎通を図ることは可能である。しかし、それは教科で学んだ力を使う場であって、英語の力を高める場ではない。また、意思の疎通を図る言語に、英語を選ばなければいけないわけでもない。

1. 2. 「英語教育」における1対1のコミュニケーション活動

近年、ネットワークの発達により、日本のことだけでなくさまざまな国の情報を居ながらにして、タイムリーに手に入れることができるようになった。さらに、文字や写真といった視覚情報に留まらず、音声や動画などにより多角的な情報を得ることも可能になった。

一般にホームページの多くは、『顔の見えない』不特定多数への一方的な情報発信の場であるが、本来コミュニケーションとは『顔の見える』相手へ自分の思いを伝え合うことである。しかし、相手と顔を見合わせての実際のコミュニケーションの場合、発話はどんどん先へと進んでいく。自分が理解できなくても、ビデオや本のように途中で止めることはできない。仮に、“Pardon me.”を使って聞き返しをしたとしても、理解できないことが一度や二度ですまないとなれば、聞き手も話し手も意思の疎通がスムーズにいかず、いやになってしまうこともある。このように、初期英語学習者の多くにとって、相手の発言に対して瞬時に対応することは困難である。

その困難さに対する心理的な苦痛を少しでも回避するために、コンピューターの通信機能を用いたコミュニケーション活動が有効である。この方法には次のような利点がある。

- 書き手である学習者に、考えるゆとりを与えることができる。
- 個々の学習者に対して、きめの細かい指導ができる。
- 学習者の知的好奇心を満たすことができる。

一つ目は、学習者にとっての利点で、自分の思いをどのように英語で伝えたらよいか考える時間が確保できるということである。E-mailは間接的なコミュニケーション手段だが、相手から送られてきたメールをじっくり読み、それに対する返答を考える時間が確保できるので、個に応じた英語学習が成立する。二つ目は、教師にとっての利点で、学習者の学習に指導・援助を与える時間が生まれることである。そして三つ目は、学習者の学習意欲を向上させることにつながるのだが、知らない国についての情報を相手から直接得ることで知的欲求を満たすことができる。生徒は、テレビや本やInternetを通しての情報は手に入れることはできても、その情報の発信者が誰であるかという特定の個人についてを知らない。ところが、メールでのやり取りとなれば、生身の相手とのコミュニケーションが成り立つ。不特定多数の誰かではなく、特定の相手とコミュニケーションすることで、生徒達は英語を使ってもっと自分のことを伝えたい、もっと相手のことを知りたいと思うようになる。

このような観点から、以下に記すFox Tech High Schoolと高富中学校との生徒の、手紙・E-mailによるコミュニケーションを活用した英語教育に取り組むことになった。

2. 実践

2. 1 経過

2. 1. 1 Fox Tech High School(Texas, USA) との交流

交流相手はテキサス州サンアントニオにあるFox Tech High Schoolである。14歳から20歳までの特別支援が必要な生徒が通う養護学校 (<http://www.saisd.net/SCHOOL/high/004/004.shtm>) で、現在2000名ほどの生徒が在籍している。

2005年の10月に、岐阜県の教育事情を視察するという目的で、アメリカの高校教師の使節団が来日した。(JFMF teacher program: 日本フルブライトメモリアルフェンド教員プログラム) 多治見グループの20名が岐阜大学を訪問した時に、Fox Tech High Schoolの美術教師であるMs. Loretta Medellinさんが、受け持ちの生徒たちが授業で書いた絵と手紙を30通ほど携え、岐阜大学の関係者(廣田)に託した。その手紙を高富中学校の生徒に紹介し、興味のある生徒が返事を書き、文通を始めたのが交流の始まりだった。生徒の中には、自分の書いた英語を添削してと頼みに来たり、封筒の宛名をどのように書いたらよいか尋ねに来たりなど、進んで行動に移す生徒が何人も見られた。Lorettaからは、日本からの手紙の返事が生徒に届いたことに対するお礼のメールが送られてきた。

その後、継続的なメールでのやり取りを通して、Fox Tech High Schoolの生徒達が、他の国に暮らす生徒との交流を望んでいることが分かった。そこで、英語学習指導の一環として、先に述べた考え方のもとに、この機会を活用することにした。

Lorettaからのメールを参考にして、Fox Tech High Schoolの学校や生徒の様子について要約すると次のようになる。

この学校に通う生徒の年齢は、14歳から20歳までである。クラスの生徒の年齢層は様々で、彼女は9年生から12年生の生徒達を教えている。アメリカの学生達は、18歳になるまでは義務教育で学校へ通わなければならない。Fox Techには、生徒でありながら親でもある学生もいる。学校の敷地内には、そういった生徒の子供に対する託児施設がある。また、自活をしている学生も何人かおり、彼らは生活費を自分で工面しなければならない。

学校には約2000人の学生が在籍している。大規模な学校なので、4つのグループに分けられ、それぞれのグループには副校長がいる。生徒の大部分は、労働者層や貧しい家庭で生まれ育った子供たちなので、朝食と昼食は無料で提供される。ここでは、日本とは異なって、生徒が料理や給仕の手伝いをするのではないし、学校およびその周辺の掃除の手伝いをするものもない。しかし、彼女は、掃除に関しては、自分たちですべきだと思っているので、美術の授業では、授業で自分が使った道具(たとえば、絵の具や筆やインクといったもの)を、次のクラスへ移動する前に、自分で片付けさせることにしている。

この学校との交流を考えた理由は主に2つある。一つ目は、養護学校に通う生徒と触れ合え、自分とは異なる環境で暮らす生徒達との交流ができると考えたからである。もう一つは、英語を学び始めて2年目の生徒達が、自分の伝えたいことを英語で書き、また相手の書いてくれる英語を理解するのに無理がない相手であるということである。

2. 2 教室での英作文指導

これまで、作文指導となると、読む相手があまり意識されないまま、作文や手紙を書く活動を行ってきた。しかし今回は、見えない相手ではなく、見える相手、つまり特定の〇〇さんに、手紙を書くのである。こういった考えのもと、実際の授業ではどういった作文指導を行っていくべきか考え、指導案を作成し実践した。

単元は2年生のUnit4 Home stay in the United Statesを取り上げた。全7時間扱いで、初めの5時間は教科書のStarting out, Dialogue, Reading for Communicationを用いて学習する。ここでは、未来のことを表す助動詞willおよび、deonticのmust (=have to), そしてmustとhave toの否定形について学習する。本時の位置は6/7で、学習した助動詞類を用いて、日本の生活についてアメリカの生徒に伝えるために作文指導を行う。手紙を書くにあたっての基本表現を使えるようにすることが目的の一時間である。したがって、次の7時間目には、その基本表現をうまく利用して(英借文)実際に手紙を書くこととなった。生徒の書いた手紙については以下の2.3節に記す。

英作文の指導では、自分の書きたい表現をどこからか見つけてきて、写すだけではほとんど意味がない。なぜなら、一度見た英文を右から左へと書き写すだけでは、生徒の中にその英文が残るわけではないからである。英語の意味は分かるかも知れないが、音読できなかったり、自分の口からその表現が出てこなかったりする。大切なのは、「あなたの国について教えてください」という内容を言いたいときに、即座に“Please tell me about your country.”という文章が出てくるかどうかである。そのためには、音読練習や、音読筆写、速音読、シャドーイング、サイト・トランスレーションなどのトレーニングをうまく組み合わせることで、自分の口から英語(の音)が出てくる状態にする必要がある。「分かった」で止まってしまう英語ではなくて、「できた」「言えた」が体感できる英語にすること。それこそが達成感につながり、この体の変化を生徒自身の中に生み出させることが、次への学習意欲へとつながっていく。いわばこの第一段階の学習意欲の高まりを、実際に手紙を書く時の動機とし、さらに相手からの反応を知ることで学習意欲を高め、継続させていくこととなる。

今後は、「使える英語」を身に付けるために、どのようなトレーニングをどの場で、どれぐらい組み合わせれば一番効果的であるかということについて検討していきたい。どんな効果的なトレーニングであっても、同じものばかりひたすら続けてばかりいては、生徒たちも飽きてしまう。生徒の英語力を正しく把握した上で、指示の明確な短時間のトレーニング(small step)を組み合わせることこそが必要不可欠であると思われる。

2.3 Fox Techとの連携を図るための英語指導案

資料の指導案では、基本表現を覚えるために様々なトレーニングを組み合わせている。そのトレーニングは以下のようなものである。

- ① 覚えたい基本表現を一度だけ聞き(130~140wpmのスピード)、どれぐらい理解できたかをメモする。(1~5段階評価)
- ② 基本構文の意味と文のつくり(文法)を理解する。
- ③ 130~140wpmのスピードで話される英文(音)と文字を対応させて聞く。
- ④ 一単語ずつ教師の後について音読。
- ⑤ 意味の固まりで区切って音読。
- ⑥ 音の連結に注意して音読。
- ⑦ 意味を思い浮かべながら、文字を見て音読。
- ⑧ はじめに文字を見て、そのあと顔を上げて音読。(Read and Look up)
- ⑨ 意味を浮かべながら、文字を見ないで音読。
- ⑩ 90~100wpmのスピードで話される英文に、重ねて音読。(shadowing)
- ⑪ 一つの基本文を5回程度、速音読。
- ⑫ 130~140wpmのスピードの英文に、重ねて音読。(shadowing)
- ⑬ はじめと同じ基本表現を聞き、理解の伸びを確認する。(1~5段階評価)

ここでのトレーニングは、13のSmall Stepを踏んでいるが、実際にかかる時間は5分程度である。教師は、一つの基本表現を覚えるための指示を様々な方向から出している。大きな課題を一つ与えると、生徒によって習得にかかる時間に差が生まれることがよくあるが、こういった小さなステップであれば、ほとんどの生徒が階段を上っていくように、目的とする場所までたどり着けることが多い。また、①と⑬にあるように、生徒が達成感を味わうことができるようにするために、トレーニング開始時とトレーニング後の、学習の伸びについて確認することが大切である。個人内評価であるので、自分の伸びを体感できる点が、次への学習意欲につながる。

ここで覚えた基本表現とは、次のようなものである。⁸

Nice to meet you.
 I am seven years old and I live in Tokyo.
 I will tell you about Japanese life.
 You don't have to use them.
 We must not wear our shoes.
 Please tell me about your country.
 See you again.

2.4 交流

2.4.1 高富からFox Tech High Schoolへ

以下は、この授業を通して生徒が書いた手紙である。

Student A

Hello. Nice to meet you. My name is _____. I'm thirteen years old and I live in Gifu. I like basketball and Science. I have a lot of friends in my school.

Today, I will tell you about our school. First, our school is Takatomi Junior High School. We have black hair and black eyes. Our school time is from 8:00 in the morning to 5:00 in the afternoon. Our classes are fifty minutes. It's very interesting! How long is your school time? Please tell me about your school. See you again.

Student B

Hello. Nice to meet you. My name is _____. I'm fourteen and I live in Gifu, Japan. I like music and shopping. I listen to music everyday.

Today, I will tell you about Japanese life. We must clean our school. Must you clean your school? We have school lunch. I like school and many teachers. I like social studies' s teachers. School life is very enjoyable. Please tell me about your country. See you again!

⁸ こうして覚えた基本表現は、次節の生徒の手紙の中で多く使われている。手紙を書く際には、覚えたこれらの表現を、話すようにして、つまり口を動かすようにして書いていた生徒も多く見られた。もちろん、すべての生徒が基本表現をすべからずと言えとは言えないが、はじめの1・2単語を示してやれば、残りの表現が口をつけて出てきていた。

一方で、こうしてその一時間では覚えた表現であっても、時間がたてば忘れていくものである。そこで大切なのは、忘れそうになるたびに覚え直すことである。覚え直すためには、一回につき、音読を10回行ったり、音読筆写を5回行ったりするとよい。こういったことは、家庭での学習や、細切れ時間を見つけてでも、十分可能である。一日5分の英語音読を、生徒の習慣にできるように現在指導を続けている。

Student C

Nice to meet you. My name is _____. I'm thirteen years old and I live in Gifu. I like soccer very much. I play soccer everyday. What sports do you like?

Today, I will tell you about my holiday.

- 1.I get up at seven.
- 2.I eat rice and miso soup.
- 3.I play soccer.
- 4.I take a nap after lunch.
- 5.I watch TV.
- 6.I eat dinner.
- 7.I go to bed at eleven.

My holiday is full. See you.

Student D

Hello. Nice to meet you. My name is _____. I'm fourteen years old and I live in Gifu. I like baseball and sports. I have a lot of friends in my school. I like Hideki Matsui. He is a baseball player. I want to see Hideki Matsui. Do you know him? Do you like New York Yankees? Is Major League exciting? Japan's Pro baseball is an exciting game. I'm OK. Do you like baseball?

Please tell me about your country. See you again.

生徒の手紙の中に見られる波線箇所は、文法や語法上の間違いがあった箇所、これについては指導を加え、修正したものを送っている。

上記4つの作文は、すべて英語が好きで得意な生徒というわけではない。生徒Dは、英語は苦手だが、野球に大変興味があり、そのことを切り口にしてコミュニケーションを図ろうとしていることが伺える。したがって、この単元で学習した助動詞類を使った表現は見られない。それでも、コミュニケーション活動という目的に関しては、何の問題もないと考えられる。一方、生徒Bは、We must clean our school. Must you clean your school?のように、deonticのmustを使って相手に学校生活について尋ねている。助動詞類を学習したことで、自分の伝えたい内容がうまく英語で表現できるようになってきている。

また、前節でも述べたことであるが、どの生徒も前時に学習した基本表現を手紙に利用していることが分かる。中でも、自分の年齢と、住んでいる場所については、全員の生徒(39/39名)が基本表現を利用して書いている。また、I will tell you about ~. やPlease tell me about your country. といった表現もほとんどの生徒が使っている。

こういった生徒の実態から、前時の作文指導トレーニングが有効なものであったといえるだろう。

2.4.2 Fox Tech High Schoolから高富へ

高富中学校の生徒が手紙を送ってから、約一ヶ月後Fox Tech High Schoolから、生徒一人一人にあてて、返事が送られてきた。以下の手紙は生徒C宛に送られてきたものである。

Hola (Hi) _____ Std C's name _____

Hi, my name is Karen.

I am sixteen years old and I live in San Antonio, Texas.

I like to play basketball, volleyball and soccer. I play soccer everyday after school when I get home.

My favorite type of food is enchiladas which is a Mexican food.

When I wake up in the morning I like to look at my soccer trophy, then I get ready for school. I go to bed at one in the morning because I get real tired by that time.

Well, that's just a little part of what I do. See you C's name, it was nice to meet you.

Karen

生徒Cは、初めの手紙の中で、自分がサッカーをすることを伝えている。その内容を読み、同じくサッカー好きの生徒が返事を書いてくれたようである。Karenさんの手紙には、Holaという挨拶が書かれているが、これはスペイン語で「こんにちは」の意味である。おそらく、彼女はスペイン語もある程度知っているであろう。また、この手紙には、彼女の好きな食べ物としてenchiladaというメキシコ料理について触れている。生徒Cは、こういったことにも興味を持ち、「一体エンチラダってどんな食べ物なのかな」とつぶやいていた。

一枚の手紙から、様々な疑問が湧いてくる。そして、知的好奇心がずいぶんくすぐられたようである。ここから先は、生徒一人一人が、自分の興味にそって、知りたいことについて調べていけばよい。そのためのアドバイスを必要に応じて、教師は今後も与えていくことになる。

3. 問題点と今後の方向

これまでの取り組みから、考えなければならない問題点は次の2つある。一つめは、交流活動を指導計画の中にどのように位置づけるかという点である。もう一つは、今後どのように交流活動を進めていくかという点である。

まず、単元指導計画との関連性について考えてみよう。高富中学校が現在採用しているのは東京書籍のNew Horizonという教科書である。海外の学生とのコミュニケーションの一つとして、手紙やmailを利用した交流をどのように教科書で位置づけ、学校の年間指導計画に位置づけるかという点は、避けては通れない問題である。

そこで、こういった学習活動はwriting指導が中心となるため、New Horizon 2の教科書では、Writing plus, Reading for communication, Multi plusの単元に位置づけることができると考えた。年間で次の6回(2時間×6=12時間)をメール(または手紙)を使ってのコミュニケーション活動の時間として位置づけると、次の単元での学習が可能になるであろう。

1. **Writing Plus 1 日記**: 簡単な自己紹介と、最近の出来事について日記風にメールを書く。
2. **E-pals in Asia Reading for communication**: 日本の学校生活についてペンフレンドに紹介する。また、相手の学校生活について知りたいことを質問する。
3. **Multi Plus2 わたしの夏休み**: この夏休みに、どこで・いつ・何をして・どうだったか、ということメールで伝える。
4. **Homestay in the United States Reading for communication**: 日本での暮らしについて、この単元で学習したことを踏まえて、ペンフレンドに教えてあげるメールを書く。
5. **Multi Plus 3 私の町**: 山県市の地理的な位置や、特産物について紹介し、またその後、通常のメールとして相手に尋ねたいことや、前回のメールの返事などを書く。
6. **Writing Plus 3 グリーティングカード**: 3学期の締めくくりに、Thank you mailを出す。

今回の交流活動は夏休み後に始まったので、4の単元から取り組むことになってしまい、一年を通しての交流活動とはなっていない。また、来年度この生徒たちは3年生に進級するので、3年生の教科書でどのように交流を位置づけたらよいのかについても、今後検討しなければならない。

次に、今後の交流活動の方向性についてである。高富中学校からの初めての手紙を郵送後、Lorettaからは次のようなメールが届いた。

My students are writing real letters to your students today. It is not very cold here yet but the weather is supposed to change this weekend. I will have some students write e-mail to you at the beginning of next week. Some of my students are putting their own addresses and photos since they would like to have a pen pal. Thank you so much for initiating this.

I have been very busy this year and have not gotten around to starting many things I have wanted to do. thanks,
Loretta

このLorettaからの提案にもあるように、今後はメールを使っての交流へもつなげていきたいと考えている。それは、E-mailがコミュニケーションにおける即時対応性を備えている上に、1.2節で述べたように学習者のコミュニケーション活動をサポートでき、英語指導のタイミングも図れるという利点があるからである。

手紙という紙媒体と、E-mailには、それぞれ異なった良さがある。手紙で返事をもらった場合、手元に手紙やカードなどが残るので、相手の文字や色遣いなどを、何度見ても楽しむことができる。そこから、相手の人柄や雰囲気などを感じ取ることもできる。この方法は、まだよく知らない相手のことを知るといふコミュニケーションの初めの段階においては、大変有効である。しかし、相手の顔が見えてきた時に、自分の知りたいことなどを即座に知りたい場合には、E-mailの方が便利である。例えば、2.4.2節で取り上げた生徒は、メールを利用して“エンチラダ”についてKarenに尋ねることもできる。手紙とE-mail、それぞれの良さをうまく取り入れることで、交流活動を活発化させていくことが可能になる。

Fox Tech High Schoolとの交流は今、始まったばかりである。アメリカからの返事の手紙が届いた時の、生徒の表情は驚きと喜びでいっぱいであった。初めての英語の手紙、しかも、ほかの誰でもない自分宛に書かれた手紙を見た時のあの笑顔を、決して忘れることはできない。

参考文献

- 鹿野春夫 (2003) 『TOEICテスト900点を突破する集中トレーニング』中経出版 東京
 川島隆太 (2003) 『音読すれば頭が良くなる』たちばな出版 東京
 國弘正雄 (1999) 『國弘流 英語の話し方』たちばな出版 東京
 千田潤一 (2004) 『英語が使える日本人TOEICテストスコア別英語学習法』明日香出版 東京
 デイビット・クリスタル著 豊田昌倫訳(1988) 『英語』紀伊国屋書店 東京
 鳥飼玖美子 (2006) 『危うし！小学校英語』文芸新書 東京
 東京書籍株式会社 (2006) 『NEW HORIZON English Course 2』東京書籍 東京
 Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum(2005) *A Student's Introduction to English Grammar*
 Cambridge University Press, Cambridge
 本名信行 (2003) 『世界の英語を歩く』集英社新書 東京
 安井稔 (1990) 『英文法総覧』開拓社 東京

資料

英語科学習指導案

- (1) 単元名 NEW HORIZON ENGLISH COURSE 2 Unit 4 Reading for Communication
- (2) 本時の位置 6 / 7
- (3) 本時の目標 モデルスクリプトの音読や音読筆写などを通して、基本表現を理解してすらすら言うことができる。

評価基準<表現の能力> 手紙を書くときの基本表現を理解し使えるようにするために、音読、速音読、音読筆写などのトレーニングを組み合わせることで、基本表現を覚えすらすら言うことができる。

(4) 本時の展開

Stage/Aim	Activity/class organization	Teacher's guide	Evaluation
<p>《Warmer》 1. to make an English speaking atmosphere</p> <p>《Language focus》 3. get stds interested in today's topic</p>	<p>1.warm-up game (in pairs) 2.Stds listen to today's script by CD (the reading speed is about 130~140wpm) and check their understanding by 1 - 5. ① 3.Stds listen to today's script by teachers. (90~100wpm) *Stds guess three T-F questions; (1)× No, it's a letter from Tokyo. (2)× He is seven. (3)○ Yes, he is.</p>	<p>*Feedback some good answers to class orally and brush up expressions</p>	<p>*to use useful expressions which stds have learned</p>
<p>5. to be able to understand basic sentences and sound rules</p> <p>《Evaluation》 6. For stds to check today's understanding. And to encourage stds to use today's expressions</p>	<p>手紙を書くときに使える便利な表現を、</p> <p>4. Stds check the meaning of today's script individually by using Japanese translation. ② 5. 《Training》 *repeating by a using Basic Rules and Sound Rules worksheet ③ *Eye-shadowing and vocal-eye-shadowing *Practice with a partner ③ *repeating by using today's script *Eye-shadowing and vocal-eye-shadowing and rapid reading ④~⑫ *Reading aloud individually *Stds choose one expression from basic sentences and write it while reading aloud 5 times.(音読筆写) 6. Stds listen to today's script by CD (130~140wpm) and check their understanding by 1 - 5 again. ⑬ 《Writing Activity→continue to the next class》 7. Stds write a letter to Fox Tech High School stds individually.</p>	<p>すらすら言えるようにしよう。</p> <p>*Teachers must use some training activities as a mixed way according to stds's states. *Help stds' writing and give them some advice *tell stds the next class plan (Stds finish writing letters and mail them from Computer Room)</p>	<p>A) This is a letter from Osaka. B) Edogawa Koman is 10 years old. C) He likes soccer and math.</p> <p>*to practice dialog repeatedly and aloud *to say basic expressions smoothly *to have motivation for the next class</p>